

秩父累帯研究の新展開—四国西部からの発信

松岡 篤*・山北 聡**・榊原正幸***・久田健一郎****

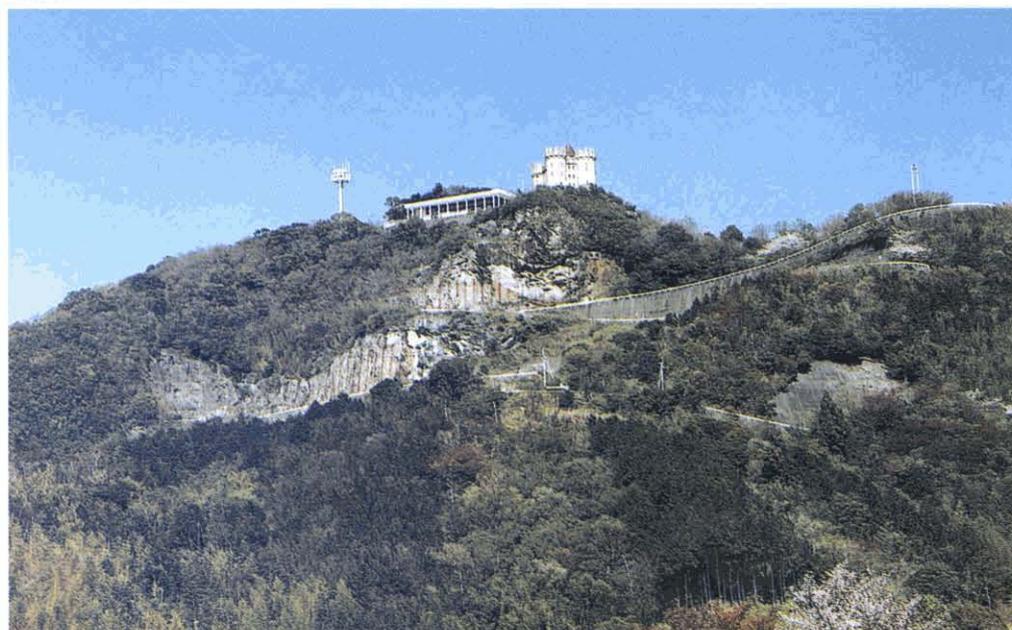
Atsushi Matsuoka*, Satoshi Yamakita**, Masayuki Sakakibara*** and Kenichiro Hisada****;
Research progress in the Chichibu Composite Belt—Reports from western Shikoku



1997年3月25日受理.

*新潟大学理学部地質科学教室. Department of Geology, Faculty of Science, Niigata University, Niigata 950-2181, Japan. **宮崎大学教育学部地学教室. Department of Earth Sciences, Faculty of Education, Miyazaki University, Miyazaki 889-2192, Japan. ***愛媛大学理学部生物地球科学教室. Department of Earth Sciences, Faculty of Science, Ehime University, Matsuyama 790-8577, Japan. ****筑波大学地球科学系. Institute of Geoscience, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8571, Japan.

秩父累帯の主要部は、ジュラ紀の付加体からなる。付加体に含まれるチャートや石灰岩などの海洋性物質について、その堆積年代や含まれる化石の古生物地理学上の特徴を明らかにすることにより、秩父累帯の形成モデルに制約を与えることができる。また、地質構造の特徴は、付加体形成から現在にいたるまでのプロセスを反映している。秩父累帯を構成する主要なユニットについて、露頭のような山塊の表情を紹介する。斗賀野ユニットと三宝山ユニットは南部秩父帯に、柏木ユニット、住居附ユニットおよび沢谷ユニットは北部秩父帯にそれぞれ属する。



第1図. 斗賀野ユニットを構成するトリアス-ジュラ系のチャート-碎屑岩シーケンス. チャート (右) から珪質泥岩 (中央) をへて塊状砂岩 (左端) にいたる岩相層序が読みとれる. この層序断面 (白石川-1セクション) はジュラ紀放射虫の生層序学的研究にも役立っている. チャートの最上部から珪質泥岩にいたる部分は、ジュラ紀中世前期から新世前期に相当する *Tricolocapsa plicarum* 帯 (Tp), *Tricolocapsa conexa* 帯 (Tc), *Stylocapsa (?) spiralis* 帯 (Ss) が連続的に認められる. 露頭全体の横幅は約70m. 高知県高岡郡仁淀村白石川.

第2図. 三宝山とトリアス系の三宝山石灰岩 (三宝山ユニット). この石灰岩からは、テチス海要素の二枚貝動物群が産出する. 同様の石灰岩は、三宝山ユニットをとおして見いだされる. 高知県香美郡野市町.



第3図. 武甲山とトリアス系の武甲山石灰岩（柏木ユニット）、武甲山石灰岩からも、テチス海要素の二枚貝動物群（*Gruenewaldia* など）が産出する。柏木ユニットと三宝山ユニットの地史的関連性を考える上で興味深い。埼玉県秩父郡。（写真提供 武甲鉱業（株）武甲鉱業所）



第4図. 住居附ユニットのチャートがつくる向斜構造。このような褶曲構造が、北部秩父帯の特徴の一つである。写真の横幅は約1.5km。徳島県那賀郡木沢村川成。

第5図. 四国カルスト。四国カルストは、沢谷ユニットのベルム系石灰岩からなっている。沢谷ユニットは、向斜軸部であり地形的高所でもある鳥形山から大野ヶ原にかけての尾根沿いに分布する。愛媛・高知県境の五段城から西方の大野ヶ原を望む。

